



日本銀行のレポートから

日本銀行は、1月、4月、7月、10月の政策委員会・金融政策決定会合において、先行きの経済・物価見通しや上振れ・下振れ要因を詳しく点検し、そのもとでの金融政策運営の考え方を整理した「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)を決定し、公表しています。また、展望レポートの内容を、より幅広い読者に伝えるための取り組みとして、そのポイントをイラストとともに簡潔に整理した資料(ハイライト)を公表しています。本稿では、2025年1月の展望レポート(基本的見解は1月24日、背景説明を含む全文は1月27日公表)のハイライトをご紹介します。

*全文は、日本銀行ホームページに掲載されていますので、ご関心のある方は、ぜひそちらもご参照ください。

<https://www.boj.or.jp/mopo/outlook/index.htm>



「経済・物価情勢の展望」(展望レポート・ハイライト)

—— 2025 年 1 月 ——

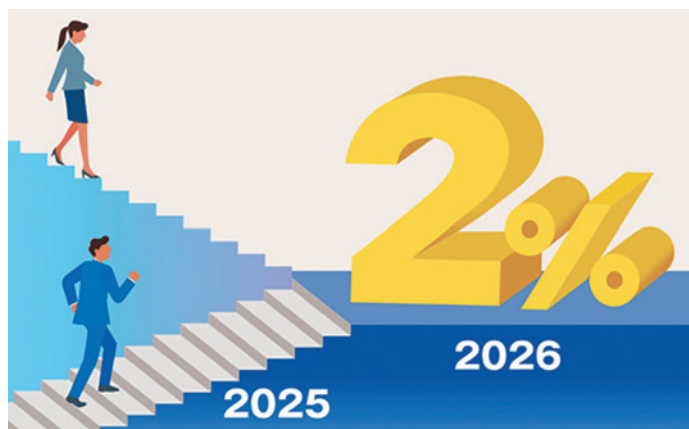


日本経済は成長を続ける

日本経済は、海外経済が緩やかな成長を続けるもとで、金融面からの後押しなどもあつて、潜在成長率を上回る成長を続けます。

物価は二%程度に向かう

消費者物価の前年比は、来年度に二%台半ばとなったあと、再来年度は概ね二%程度となります。この間、一時的な変動を取り除いた消費者物価の基調的な上昇率は、徐々に高まったあと、二%の「物価安定の目標」と概ね整合的な水準で推移します。





日本経済・物価を巡る 不確実性は高い

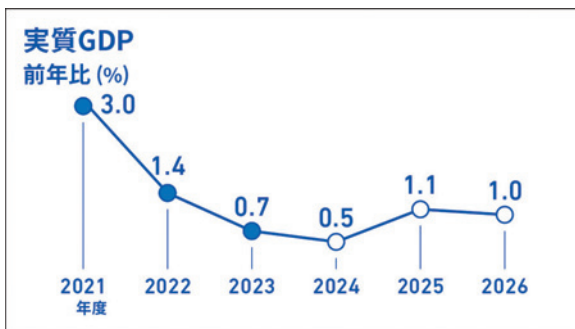
海外の経済・物価動向、資源価格の動向、企業の賃金・価格設定行動など、日本経済・物価を巡る不確実性は引き続き高い状況です。また、金融・為替市場の動向と日本経済・物価への影響にも十分注意を払う必要があります。



2%目標のもとで 金融政策を運営していく

金融政策運営については、先行きの経済・物価・金融情勢次第であるが、経済・物価の見通しが実現していくとすれば、それに応じて、引き続き政策金利を引き上げ、金融緩和の度合いを調整していくことになると考えています。

政策委員の経済・物価見通し



(注) ●は実績値、○は見通しです。





日本銀行のレポートから

日本銀行では、本支店・事務所が企業への聞き取り調査等を通じて行っている各地域の経済金融情勢に関する調査の結果を、「地域経済報告」（さくらレポート）として、年4回（1月、4月、7月、10月）の支店長会議の機会ごとに取りまとめています。

*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。<https://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm>



「地域経済報告」（さくらレポート）

各地域の

景気判断の概要

— 二〇二五年一月 —

各地域の景気の総括判断をみると、一部に弱めの動きもみられるが、すべての地域で、景気は「緩やかに回復」「持ち直し」「緩やかに持ち直し」としている。

	【24/10月判断】	前回との比較	【25/1月判断】
北海道	一部に弱めの動きがみられるが、持ち直している	➡	一部に弱めの動きがみられるが、持ち直している
東北	緩やかに持ち直している	➡	持ち直している
北陸	一部に能登半島地震の影響がみられるものの、緩やかに回復しつつある。なお、奥能登豪雨の影響については、被災地に基大な被害を及ぼしているが、今後、マインド面を含めてどの程度、経済を押し下げていくか注視していく必要がある	➡	一部に能登半島地震の影響がみられるものの、緩やかに回復している
関東甲信越	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	➡	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している
東海	緩やかに回復している	➡	緩やかに回復している
近畿	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している	➡	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している
中国	緩やかな回復基調にある	➡	緩やかな回復基調にある
四国	緩やかに持ち直している	➡	緩やかに持ち直している
九州・沖縄	一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している	➡	一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している

（注）前回との比較の「➡」、「➡」は、前回判断と比較して景気の改善度合いまたは悪化度合いが変化したことを示す（例えば、改善度合いの強まりまたは悪化度合いの弱まりは、「➡」）。なお、前回判断と比較して景気の改善・悪化度合いが変化しなかった場合は、「➡」となる。

